

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム ベルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	平成30年10月11日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosvoCd=0174600197-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ご家族との繋がりをいつまでも継続する事」数年前より、生活の様子や出来事(写真付き)をお手紙にして担当者から毎月お知らせしています。ご家族も楽しみにしており、電話をくれたり手紙の返事をくれたりします。手紙には本人から返事を書いたり、これまで疎遠だった方との繋がりがもてきました。また、イベントの際には家族が準備し、家族がプレゼントを手渡す事も継続しています。

「いつまでもベルエポックで生活出来る」最期までベルエポックで生活出来るよう看取りについても行っています。他機関・法人内他施設、そして家族の協力を得ながら実施しています。

「利用者個々を大切に」いつまでも、自分の力で歩く・自分の力で食べる！事を大切にしています。個々のやる気を引き出すために、達成感を感じてもらう為に、楽しい事・嬉しい事など、日々笑顔で過ごせるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな十勝平野の閑静な農村地帯に位置し、母体法人が運営する福祉施設群がコミュニティを形成している。居間は陽光が入り明るく、温・湿度が調整され、廊下には利用者の作品や行事の写真を飾って、家庭的で明るく居心地の良い雰囲気になっている。調理室が中央にある為料理をしながら利用者の様子がわかり、利用者は安心して思い思いに過ごしている。JA帯広かわにしと近隣の3町内会との地域連携を目指し、地域の祭りや町内清掃、幼稚園や小学校等の運動会・文化祭に参加するなど交流を深めている。また、地域への社会貢献意識も高く、ボランティアや人材育成研修を受け入れたり、様々な障害者就労支援を行っている。利用者家族との関係も良好で、定期的に開催している運営推進会議の中で家族の声が反映される環境が作られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「基本理念」高齢者部門の「ケア理念」と「グループホーム基本理念」に基づいて運営できるように、会議で意味合いを話し合い、意識してケア出来るように努めている。	法人の「基本理念」と「ケア理念」、事業所独自の理念を基に、地域密着型サービスの意義や役割を理解しながら職員が共有してケアに繋げている。	事業所独自の理念が制定されて期間が経っており、地域の状況や利用者の高齢化などを鑑みながら、新たな事業所理念を職員全員で作り上げることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	見学や実習、ボランティアを受け入れ、地域との繋がりに努めている。利用者や買い物に出かけ、地域を感じられる機会を作っている。	農村地帯にある当事業所は、隣接する川西地域にある3町内会とJA帯広かわにしとの交流で、地域の祭りや町内清掃、幼稚園や小学校等の運動会・文化祭に参加するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターや老人会、町内会等と情報交換を行いながら、地域の現状や、施設が地域に出来る事を共有している。お茶会の開催。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員には、サービスの状況報告だけではなく、行事へも参加頂き、利用者や職員との交流の機会を設けている。	JA帯広かわにし、地域包括支援センター、町内会、知見者、家族等が出席して年6回開催している。運営状況及び行事等について報告し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や、生活保護課への連絡を必要に応じて行っている。	管理者は市担当者を訪問して運営状況を報告し、介護保険の更新や生活保護手続き等について相談し助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度からの制度改正に伴い、委員会会議を開いている。該当例は無いが、職員間で意識が高まる様に言葉による拘束にも気を付けている。	身体拘束をしないケアについては、身体拘束委員会を設置し事例を元に研修会や改善活動を行っている。身体拘束の弊害や 具体的禁止行為、不適切な言動について正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	該当例は無い。職員間で意識が高まる様に不適切ケアを話し合っている。法人全体で講師を呼び研修会を行っている。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族の状況の変化に伴い、地域包括支援センターの社会福祉士の協力を得ながらご家族とお話をして、制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について利用者・ご家族に説明を行い、個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂き、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡の際に意見を頂いている。利用者・ご家族からの要望を伝えやすいように会話の機会を多く持つ事を心掛けている。	家族が来訪した時には意見や要望を聞くようにしており、来訪できない家族には電話にて利用者の状況を報告すると共に、意見などを聞くようにしている。利用者や家族から出された意見や要望は毎日の会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や、日常の会話の中で意見交換をしながら運営にあたっている。	管理者は職員の意見や要望を聞けるような雰囲気づくりをしており、個別の意見なども聞けるようにして、普段のストレスや不満の解消に努めている。改善提案などが出た時は、それを実行するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が、やりがいを感じられる様に日常や会議の場で改善点を話し合い、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修・学習会への参加と日常業務を通じてスタッフの育成を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で交流する機会があり、交流事業に参加をした内容を会議で報告する機会をつくり、他事業所の良い取り組みを参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面接し、本人・家族・他関係機関から生活歴などの情報を頂き、関係作りに生かしている。又、本人にとって不安な事や要望を聞いて、総合的なアセスメントをしながら、必要なケアを実施し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	途切れのない、関係作りの協力をお願いしているが、生活が始まると、家族側が距離を置きたい内情も見えてくるケースもある。時間を掛けて長い目で関係作りを重ねていきたい思いでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が大切にしたい事柄を伺い、同じ気持ちで向き合えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がしてみたい事やどうしたら本人が満たされるのかを念頭に置きながら対応している。家事活動を一緒に行いながら、アドバイスを頂き、お礼を伝える場面を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活状況や体調変化を随時お知らせし、生活に対する意向を確認し、ケアに反映させている。行事等一緒に楽しむ機会を作り、通院にもご協力頂いている。また、本人の誕生日会にも足を運んで頂き、ご家族を交えてお祝いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの床屋に切ってもらったり、法人内の他事業所のイベントに参加して、馴染みの人や場所が出来、そんな方々が日常的に遊びに来ている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係ができる様に支援しており、友人・知人の訪問があった場合は居室でゆっくりできるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに、馴染みの関係がある中で、更に会話を活性化出来る様、座席の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族が継続して運営推進委員を引き受けてくださる。会議だけではなくイベントにも参加して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当が中心となり、日々の記録・アセスメント・モニタリングを実施している。日々の生活の中で関わりを持ち、その方の意向の把握に努めている。把握が困難な場合や課題が生じた場合にはケース会議・職員会議にて検討、関わりについての確認を行っている。	日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、思いを把握するようにしている。日常の行動や表情から意向を汲み取ったり、家族からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、面接により、これまでの暮らしを知る。入所後もご家族等から話しを聞く機会がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化がないかを確認し合う。又、記録に残している。得た情報を職員間で話合ってモニタリングを実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の中での気づきを都度、意見し合い本人・ご家族の意向を確認し、計画を作成している。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、6ヶ月毎で見直して介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、状況に変化があればその都度、医師や看護師と相談をして見直ししながら、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式を見直して情報を見やすくして、日誌・連絡ノートを活用している。会議の場でも情報共有し、検討をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれていないか把握に努め、どのような対応が必要かを日常と会議の場で話し合い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との関わりを持つ機会(歌の会等)に参加して、繋がりを継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望をしっかりと把握し、かかりつけ医との関係を継続できる様に支援している。	入居前からのかかりつけ医への受診を、家族と協力しながら支援している。通院には家族が同行するが職員が同行する時もある。家族との受診時には利用者の健康状況などを医師に報告するが、職員が同行する場合は受診結果を家族に報告している。	

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々に通院している病院の医師や看護師と相談をしてアドバイスを頂いて通院し、結果をベルの看護師に報告して情報共有に努めている。夜間等の急変事の対応はこれからも細かく対策を行っていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状説明の場へ出向き、情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	それぞれにかかっている医師から今後の治療方針についてお話があった際にご家族にも同席して頂き、一緒にお話をしている。重度化・終末期に、どう対応して取り組んでいくかが課題だと感じる。	入居時に「重度化した場合における対応の指針」を利用者や家族に説明し同意を得ている。看取りの経験はあるが、職員全員が勉強会を通して看取りを学び、終末期のケアの支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こった時は、状況と対策を検討し繰り返さない様に工夫している。以上の事を記録として残し改善策をとる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、有事に備えている。マニュアルの作成と見直しを行っている。	消防署の指導の下、日中と夜間の火災を想定して避難訓練を年2回実施している。避難訓練には運営推進会議参加者や地域住民が参加している。また、今回の地震やブラックアウトを踏まえて隣接する法人本部と連携しながら災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訴えを否定せず、最後までお話を聞いたりする等、人格の尊重に努めている。	誇りやプライバシーを損なわないように利用者個人の人格を尊重するケアに努めている。トイレ誘導時も、周囲に配慮した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を、遠慮のないように伝えて頂けるような声掛け・対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動される際に「どうしたいですか?」と希望を伺うことを大切にしている。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時に、お化粧品やマニキュアでお洒落をして頂いている。男性には、声掛けをして髭剃りして頂いたり不十分な時はお手伝いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い、朝食のみを作っているが、買い物同行や盛り付け、おやつ作りの場面で利用者が出来る事を一緒にして頂いている。	職員が作り利用者と一緒に食べている。下ごしらえや配膳等を手伝ってもらい、楽しい食事の時間を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好んでもらえる物をお勧めし、脱水や低栄養の予防に努め、ムセのある利用者には、水分にトロミをつけたり、食べやすい様に調理して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える方は見守りや声掛けを行い、介助が必要な方にはガーゼで口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分から「行きたい」と言える方を見守っている。他、時間を見て上手にお誘いしたり排泄用品を交換している。ご家族に相談して下着の素材や形状を状態に合った物を購入頂いている。	排泄チェック表を活用し、動作から見極めながら声掛けや誘導を行い、トイレでの自立排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な方には朝、牛乳をお勧めしたり、水分を摂って頂けるように働きかけたり、医師に相談しながら調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回をめぐりにお誘いしている。好みの湯の温度を伺い気持ちよく入って頂ける様に支援している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の体調の変化や希望があった際には、随時対応できるよう支援している。入浴を拒む利用者には無理強いはせず、時間や担当者を替えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に合わせて、日中でもベッドで休んで頂いたり、ソファでゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬を朝・昼・夕・就寝前に分けた後、職員2名で確認をして誤薬防止に努めている。本人が服薬出来たかを見届けている。		

グループホーム ベルエポック

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁を敷地内他施設の利用者と楽しんで頂いたり、歌が好きな方同士で歌えるように職員も一緒に歌ったり、手先が器用な方にはチラシでゴミ箱を作って頂いたり、毎日の体操の呼びかけをして頂いたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に楽しんでもらえる様な場所を職員が提案したり、本人からの「行った見たい」との要望があると、外出する様支援している。	ドライブで紅葉見物やスーパーに行ったり、家族で同行して墓参りに行ったりしている。日常の生活に潤いと変化を提供するような外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの「買い物に行きたい」希望がある時や、職員からの働き掛けで一緒に出かけ、自身で支払が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙や贈り物が届いた時、時間をおかずに一緒に手紙を書いたり、付き添って電話を掛ける支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為に、装飾を行っている。季節にあった物を貼って飾っている。	高い天窓から陽光が燦々と入り明るく、広々とした居間と廊下には利用者の作品が展示されており、行事の写真が飾られ居心地の良い雰囲気になっている。また、調理室からは常に利用者職員双方に見通しよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でも寛げるように、ソファを配置したり、気の合う利用者同士でお話や歌ったりできる様に席の配置を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の使いなれた物を持ちこまれている。本人の希望とご家族のアイディアを話し合い、置いている。	利用者それぞれに、馴染みある家具や仏壇を持ち込み、家族の写真や自作の手工芸品を多く飾り付け、利用者が居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使用している方、車椅子を使用している方の動線を配慮して、テーブル、ソファ、一人掛けの椅子を配置している。		